

## 令和7年度第2回全国健康保険協会徳島支部評議会議事録

○日時：令和7年10月28日（火）14時00分～16時00分

○場所：全国健康保険協会 徳島支部 5階会議室

○出席評議員（五十音順 敬称略）

上田輝明	徳島県商工会議所連合会 専務理事
牛田聡史	日亜化学工業株式会社総合部門管理本部給与厚生センター センター長
北島一人	徳島県商工会壮青年部 部長
孝志茜	さくら税理士法人 公認会計士
中内美香	徳島県国民健康保険団体連合会保険者支援課 課長
平井松午	徳島大学 名誉教授
布川徹	徳島県中小企業団体中央会 会長
古谷京一	徳島文理大学 総合政策学部教授

○議事次第

- 1 令和8年度全国健康保険協会徳島支部の保険料率について
- 2 全国健康保険協会 DX について（電子申請、けんぽアプリ、マイナ保険証）
- 3 令和8年度支部事業についての意見交換

○議事内容要旨

1. 令和8年度全国健康保険協会徳島支部の保険料率について  
事務局より資料1-1～資料1-6、補足資料に基づき説明し、ご意見をいただいた。
2. 全国健康保険協会 DX について（電子申請、けんぽアプリ、マイナ保険証）  
事務局より資料2に基づき説明し、ご意見をいただいた。
3. 令和8年度支部事業について  
事務局より資料3-1～資料3-3に基づき説明し、ご意見をいただいた。

（主な議論の概要）

1. 令和8年度全国健康保険協会徳島支部の保険料率について

### 【主な意見】

《学識経験者》

10%維持はやむを得ない。将来的な成長を考えながら、単年度収支が黒字になるような運営をお願いしたい。今後は、予防事業への取り組みが必要。また、準備金の運用はするべきと考える。運用して還付などができるのであれば加入者の行動変容につながるのではと考える。

《事業主代表》

- ・10%維持は仕方ないと思う。資料を見ると将来にわたって良い話がない。社会保険料の負担

感はどんどん高くなっている感がある。これを下げていくにはどうしたらいいのか。医療費の負担を無料にするという話があるが、安易に使ってしまうことにもつながり、多少なりとも負担をするべきと考える。

- ・10%の維持は昨年と同様にやむを得ないと考える。しかしながら下げる努力はしてほしい。また、準備金の運用は良い取り組みと考える。ただ、1,000億円は少ないと感じる。安定運用だと思うので、拡充をお願いしたい。
- ・今後、5年、10年を考えると10%維持は妥当と考える。

#### 《被保険者代表》

- ・医療保険制度を維持するためには10%は仕方ない。今後、保険給付費は増加するとあるが、増加はどの部分が大きいのか知りたい。赤字の健保組合が協会に入る可能性があることは仕方ないが保険料率に影響する場合、理解が得られる説明をする必要がある。
- ・10%維持はやむを得ない。来年度の保健事業に力を置いて予防活動を進めてほしい。
- ・10年以内に単年度収支がマイナスになるパターンがあることを考えると10%維持はやむを得ない。人間ドック、節目健診など健康づくり事業を進めて医療費を抑制してほしい。

#### 《事務局》

運用面については、金銭信託5年で満期運用するという前提の下で行う。これから少しずつ探りながらやっていくのだろうと想像している。やっと運用に一步踏み出せたので、これが順調にいくと、また次の段階に進んでいけると思っている。

## 2. 全国健康保険協会 DX について（電子申請、けんぽアプリ、マイナ保険証）

### 【主な意見】

#### 《事業主代表》

非常に良いことだと思う。ぜひ進めていただきたい。セキュリティ面は十分対策をとっていたきたい。

#### 《学識経験者》

大学生は基本アプリの世界で生きている。マイナ保険証は国民の全員が持っているものと思っていたが免許証より普及率が低い。普及しなければ利用されない。日本人は、ほぼ全員スマホを持っており、かなりの人がスマホに依存している。そう考えると、アプリをどれだけ利用してもらうかが重要。協会けんぽの強みとして、事業所にアプリを入れてくださいと頼むのは可能だと思う。コンテンツが便利だとわかれば、情報の拡散もすすんでいく。アプリを通して提案し、その中にインパクトのある情報も含めていく。プラスでSNSにつながっていくように進めていくと未来がある。

### 3. 令和8年度支部事業について

#### 【主な意見】

##### 《事務局》

上手な医療のかかり方でCMをしたり、ショッピングセンターのサイネージやチラシ配布を行っているが、毎年同じような広報しかできていないと考えている。できるできないは別として、イベントに参画するとか、何かほかにこういうことをしたらいいというのがありましたらお教えいただきたい。

##### 《事業主代表》

時間外受診が徳島だけ突出している事例がある。それは、医療機関が充実しているからだと思う。企業側からすると、提示の時間内に医療機関にかかれるように（1時間単位の有給がとれるなど）したい。小規模事業所はそのような対応がとれていないところもあるかもしれないが、そこにまた一つの示唆を与えていただいたと思う。電子申請やアプリの広報などでシャットアウトされない限りはこちらからドンドン発信していくことも必要。優しい感じもよいが、強い口調もいいのではないかな。あまり脅すのもいけないと思うが、危険度を訴えていくという形も必要ではないかと考える。

##### 《事業主代表》

休日のイベントでチラシの配布等を行うのもよいのではないかな。まず目に触れる、手に持つという形をとるのもよいと思う。インパクトがあれば、読んでみようかなという風になるのではないかな。もし改良されるならそのような一言もいいのかなと考える。

##### 《被保険者代表》

ターゲットに子供を持つユーザーだけではなく、もう少し幅広く行うのも面白いと思う。理由が二つあり、一つは、上手な医療にかかってほしいのは子供に限らず、うちの会社でも夜勤者が救急行か迷って相談受けることもあるので、そのようなときにこういうかかり方を有効に活用できるのかなと思う。もう一つが、おじいちゃん、おばあちゃんが子供の面倒を見ていることも多いと聞く。そういう意味でも、ターゲットをある程度絞るのもよいが、たまには広げてみてもいいのかなと思う。

##### 《被保険者代表》

キャラクターはかわいいので、グッズがあっても面白いのではないかな。

##### 《被保険者代表》

若者の目につくためにも時間外受診についてSNSを使った広報もいいのではないかな。

働いている者からすると、緊急性がないからこそ時間外（遅い時間）に受診するのが自然な行動になっている反面、徳島で診療科が少ない病院へは予約の時間に行かないと行けないので時間

内に行く。徳島県の診療科のバランスもあると思う。

《学識経験者》

経済学から見ると、行動変容に一番効果があるのはアメとムチになる。そのため、健康事業所宣言を始めるときにアメがないとインセンティブが働かない。ダメな人にはやっらいけないですよとか、時間外診療が多い地域とか、事業所に関しては、「あなたたちが保険料を上げているんだ」と訴えることが必要だと思う。キャラクターはかわいい。アニメの力を利用して、コンテンツを利用して、広めていければいいのかなという気がしている。

《学識経験者》

DX で移行期なので、AI の利用とか色々できると思います。アプリの利用で、地域間の格差を減らすことができるのではないかな。コンテンツをうまく活用していくことが重要。

《学識経験者》

事業に関しては際立ってきているが、時間外診療がこんなに多いのはどうしてなのか考えてもわからない。特徴があるということは特徴に対して対策が練りやすい。対策に対する効果がどうして出ないのか難しい。他県は医者がつぶれる（都会）。でも徳島はつぶれないし、新規の病院ができる。時間外受診の窓口も他県に比べて多い。他県は行く選択肢もない。インパクトのあるような、認知バイアスかからないように認知してもらうことが大事。

《事業主代表》

医者も商売。お客さんがどうしたら出てきてくれるか。時間外をすれば来てくれるのではないかと捉えていると思う。よく考えたら、土曜日は時間外。一般企業は土日休み。でも医者は土曜日診療したら水曜日とか木曜日に休むから時間外ではなく振替ではないのかと思う。まだまだ時間外を認識している人は少ない。

以上

次回評議会開催日程

- 日 程： 令和8年1月
- 場 所： 徳島支部会議室
- 議事内容予定： 未定